

あたり多大なるご協力を賜りました公益財団法人肥後医育振興会に深謝申し上げます。

### 第二十九回熊本医学生物・科学国際シンポジウム報告

熊本大学大学院生命科学研究所小児科学分野 教授 遠藤 文夫

平成二十五年十一月一日(金)に熊本大学生命科学研究所小児科学分野が担当となり熊本大学山崎記念館にて第二十九回熊本医学生物・科学国際シンポジウム「母乳の科学」を開催いたしました。ご支援およびご指導を頂きまして、この場をお借りして深謝申し上げます。

本国際シンポジウムにおきましては、生命科学研究所から竹屋元裕研究部長の御臨席を賜り、小児の栄養、特に母乳栄養に関する最新の科学的な知見を欧米から第一線の研究者をお招きし、専門的な分野から一般市民にも理解できるように領域まで幅広く議論を行いました。実りある活発な会議となりました。

米国より栄養学・アミノ酸栄養学の第一人者であるテキサスA&M大学教授である Guoyao Wu 教授、ベルギーからは Free University およびブリュッセル小児病院教授であり小児消化器栄養の第一人者である Gigi Veerman 教授、オランダより Emma 小児病院およびアムステルダムVU大学小児科学講座教授であり未熟児新生児の栄養・母乳育児に関する研究の第一人者である Hans van Goudever 教授をお招きしました。各先生には特別

講演をしていただきました。

さらに、アジア地域での小児栄養の状況ならびに各国における栄養学研究の現状については、タイ、マレーシア、ベトナム、インドネシア、フィリピンから各国を代表する研究者および政府関係者をお招きしました。各国の現状と問題点について発表いただくとともに、参加者による活発な議論が交わされました。母乳に関する科学的な検証はもとより、近年の研究からは胎児期、幼児期、小児期の栄養管理が将来の成人病の大きな要因であることなど幅広く論議されました。

日本からは、熊本大学大学院生命科学研究所産科婦人科学分野の片淵秀隆教授、大場隆准教授にご参加いただき、エコチル事業でわかりつつある事柄についてたいへん意義のあるご講演をいただきました。土屋廣幸先生(福田病院)には新生児の個性に関する行動評価に関する興味深いご講演を頂きました。

また、夜の部ではテーマ「母乳を考える」と題して市民公開講座を開催いたしました。熊本大学医学部附属病院総合周産期母子医療センター講師岩井正憲先生に座長をお願いし、熊本大学医学部附属病院新生児学寄附講座特任教授三淵浩先生、熊本大学大学院生命科学研究所産科婦人科学講座准教授大場隆先生、味の素株式会社二宮くみ子先生にご講演いただきました。未熟児、新生児の栄養から代謝異常などの様々な生命現象がわかりやすく説明されました。

国際シンポジウムでは約八十名、市民公開講座では約百名ご参加を頂きました。諸先生方には運営のみならずご講演、ご指導及びご支援を賜りまして、誠にあり

がとうございました。本シンポジウムは熊本大学、生命医科学研究部の御支援により開催いたしました。肥後医育振興会からも多大な御支援を頂き、心から感謝申し上げます。

### 第六十一回日本心臓病学会学術集会報告

熊本大学医学部附属病院循環器内科 医局長 掃本 誠治

第六十一回日本心臓病学会学術集会会長 熊本大学大学院生命科学研究所循環器内科学分野 教授 小川 久雄

国立循環器病研究センター 副院長 小川 久雄

第六十一回日本心臓病学会学術集会は平成二十五年九月二十日(金)〜二十二日(日)、熊本市のホテル日航熊本、熊本市現代美術館、鶴屋ホール、パレアにて開催されました。「Evidence Based Cardiology」をテーマに臨床心臓病学の最新の知見について、一般演題一五九四演題、特別プログラム二九二演題、合計一八八六演題の過去最高の多くの研究成果が報告され、また、四〇七九名という日

本心臓病学会史上最高の参加人数を記録し、天候にも恵まれ全日程を終了することができました。

学会のメインの講演である坂本レクチャーに「Charles M. Gibson 先生 (Beth Israel Deaconess Medical Center, USA) の Novel Antiplatelets and Antithrombins の講演をはじめ、Peter Libby 先生 (Brigham and Women's Hospital, USA)、John G. Harold 先生 (President-Elect, American College of Cardiology, USA)、Anthony DeMaria 先生 (Medicine University of California San Diego, USA) など、合計一六名の海外招請医師による特別講演を行いました。例年同様に、シンポジウム、ジョイントシンポジウム、コントロバース、ビジュアルワークショップ、教育講演、メデイカルスタッフセッション、ハンズオンセミナー、モーニングレクチャーなど開催し、国内外の各分野を代表する研究者に発表して頂きました。

会長講演では、小川久雄教授がご講演初代教授の泰江弘文先生が座長をされました。三〇年前に、診療科として循環器内科がスタートし、最初の頃は少人数で、予算もままならず、大変ご苦労されたにもかかわらず、高い志をもって目を輝かせて研究、診療、教育に邁進されたことを同門の先輩から常日頃お聞きしておりましたので、循環器内科医局員にとつては、感慨深いセッションとなりました。

また、特別企画として、わが国の心臓病学への貢献をテーマに、坂本二哉先生(心臓病学会創始者のお一人)、寒川賢治先生(ANP、BNPの発見者、国立循環器病研究センター)、須磨久善先生(日本初のバチスタ手術を施行)、井上

